

種子繁殖型イチゴ品種の 開発と栽培技術の確立

令和4年6月24日（研究功労者表彰）
三重県農業研究所* 北村八祥

* 三重県農林水産部 獣害対策課（令和4年4月～）

種子繁殖型品種のメリット

イチゴは、収益性が高く後継者が多い品目。

しかし、育苗作業の負担が大きく経営の効率化が難しい

今の品種



親から子への

病害虫感染

西南暖地の炭疽病被害

効率悪い



ランナー
(親株から発生するクローン)

種から育てる品種になると



従来型	種子型
40倍	4000倍

増殖効率抜群

病虫害伝染環遮断

「種」でうつる病気は極少

病害虫に感染していない大量の苗を
容易に得ることができる
▶ **苗生産の分業化が可能に！**

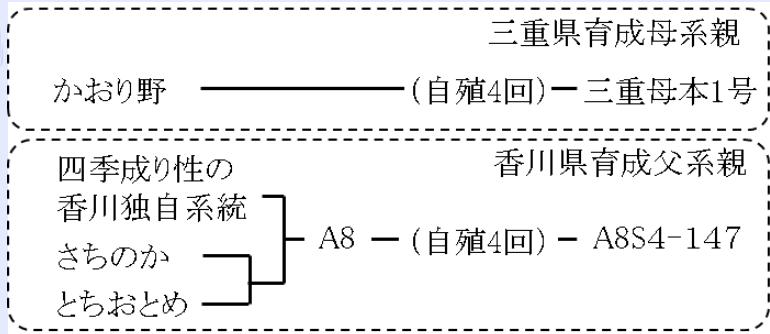
登場！ニュータイプのイチゴ品種

種子繁殖型品種「よつぼし」

日本で2番目
実用化として初

特徴

- ◆ 種から育てるから病害虫が少なく増殖率抜群
- ◆ 5月に播種して9月に定植。11月から収穫できる促成栽培品種
- ◆ 長日条件で花芽ができ易い四季成り性をもつ
- ◆ 鮮紅色で形のきれいな果実
- ◆ 高糖度で風味がある濃厚な食味



革新的な栽培法

- ◆ セル苗購入の二次育苗法
- ◆ セル苗購入の本圃直接定植法

苗生産の分業が実現する！

イチゴで初めてのセ
ル苗流通開始



促成栽培 3つの代表タイプに整理

栽培体系が変わる

親株保管がいらないうえに
育苗労力を大幅削減



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
従来品種		株保管		親株	増殖・育苗		定植	…	…	…	…	収穫
二次育苗					播種	購入苗 鉢上	2次育苗	定植	…	…	…	収穫
本圃直接定植					播種		定植	花成 誘導	…	…	…	収穫

セル苗購入二次育苗法 – 慣行法に近く安定した栽培法。

セル苗購入本圃直接定植法 – 大幅な省力化。育苗施設もいらない。

生産者による播種 – 種苗代も節約。ただし、播種技術が必要。

栽培面積・収穫期の拡大

「よつぼし」によるイチゴ経営の新展開

育苗作業の省力化や病害虫対策で新たな可能性

大規模経営体への導入



7,000株/10aとすると70,000株/ha必要



苗の準備や定植作業も
セル苗なら楽々



閉鎖型植物工場への活用



種子なら病害虫フリーの
ため植物工場内への
持ち込みが容易



育苗施設なし 本園のみ

異業種の農業参入促進
～高級ジャム加工業者が果実生産を～

全国に広がる種子繁殖型イチゴ「よつぼし」

全国の生産者に種苗供給

- ・三好アグリテック(株)
- ・有限会社 バイオ・ユー
- ・三重興農あのつ園研(株)
- ・(株)花の海

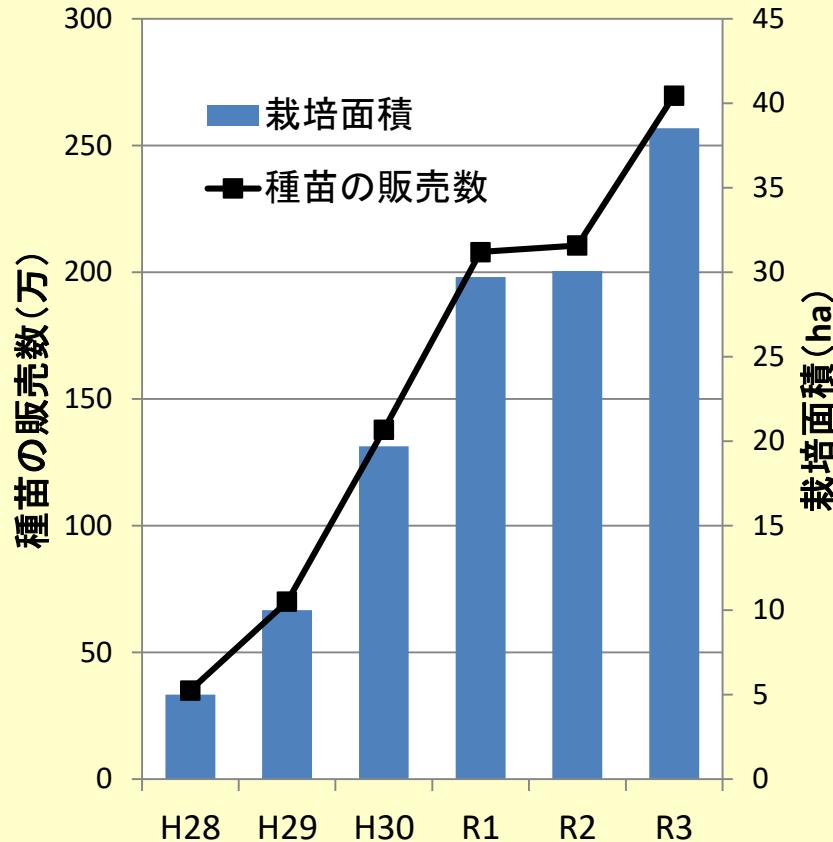


大規模生産者、観光農園、
市場出荷、植物工場、家庭
菜園など用途は広い

種子繁殖型イチゴが全国に普及

さらに海外の12の国・地域でも品種登録出願→海外での栽培も準備

「よつぼし」を成功事例に次のステップへ！



複合病害抵抗性 新品種「MYAGMIE-1」

～種子繁殖型品種のラインアップ充実と競争の時代へ～



品種登録出願:令和2年9月18日 第34944号

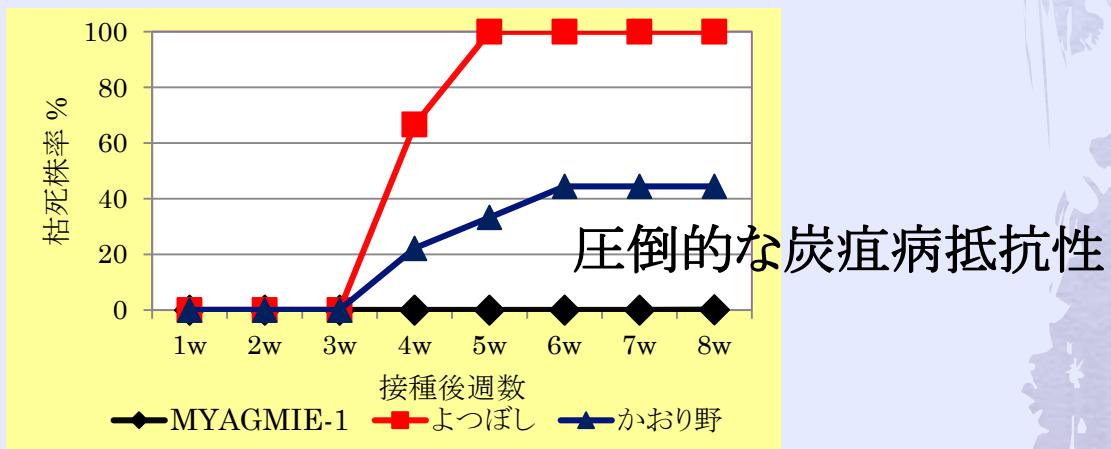
販売名「ベリーポップ すず」



種苗業者(株)ミヨシと三重県の共同育成

- 炭疽病抵抗性
- 萎黄病抵抗性
- 果実が硬く輸送性が高い
- 発芽が早い

「よつぼし」にはない特性



・(株)ミヨシからはオリジナル2品種（国内1、海外1）も発表（令和3年1月）

・複数の公設試も品種開発に着手（三重県はオリジナル品種育成も）

・国際競争力強化技術開発プロジェクト

「日本品種の優れた品質と輸送性を持つ輸出向け種子繁殖型ジャパンブランドイチゴの開発」

新品種が次々とデビュー

イチゴ種子繁殖型品種 「よつぼし」を我が国初の成功事例に



種子繁殖型品種の開発、栽培技術および種苗供給体系の確立、さらには社会実装にむけて、ご指導、ご協力、ご支援いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。